

**歴史文化保存展示施設専門検討委員会 第1回活用部会
意見要旨《発言順》**

| 議題(1)「活用部会の進め方と事例について」 | |
|------------------------|---------|
| 1 整備方針の活用について | |
| 2 活用部会の進め方・協議内容について | |
| No. | 内容 |
| | 意見・質問なし |

| 議題(1)「活用部会の進め方と事例について」 | |
|------------------------|--|
| 3 博物館の連携事例について | |
| No. | 内容 |
| 1 | 意見 <p>多くの事例紹介があり参考になった。前提として、連携を進め過ぎると、本来の施設の目的と離れてしまう危険性があることを考えておく必要がある。</p> <p>学校連携は大切な分野である。学校の教育方針を常に勘案し、学校の狙いと外れないように、学校側との密な事前協議が必要となる。</p> <p>市民連携は生涯学習の一環として行われるべきもので、市民からの自発的な声が挙がるのが理想である。そのためにも、そのような団体を育てることが重要であろう。</p> <p>美術館連携については、一番重要な項目である。今の美術館活動と新施設の活動をどのようにマッチをさせていくかが重要である。ただ、事例にあった美術館での歴史資料展示に関しては、世界子ども美術館は子どもが対象のため難しいだろう。</p> <p>観光連携については、館としてのPR活動が大切と感じる。このような点を踏まえつつ、今後の議論を深めていきたい。</p> |
| 2 | 意見 <p>教育面から。小学生を考えたときに、6年生の歴史学習と3年生の昔のくらしの学習がある。各学年約400名で計800名がターゲットとして考えられ、それらに役立つ展示がよい。また、世界子ども美術館が実施しているスクールミュージアムを取り入れる際には、浜田市教育研究会社会科部会と学芸員が連携する必要がある。</p> <p>学校貸し出しキットは良い。3年生は昔の道具の学習をするので、活用できると思う。それが来館へのきっかけにもなる。</p> |
| 3 | 意見 <p>浜田市教育研究会社会科部会として、活用については他の教員とも相談をしてみたい。</p> <p>出前授業は必要と思う。学校として出向くのは難しい現状にあり、出前授業は学校として助かる内容である。スクールミュージアムに関しては、歴史バージョンがあってもよい。6年生の歴史学習、4年生の郷土を開発した人々の学習が想定できる。</p> <p>美術館との連携では、美術館の創作活動において学校で学ぶ水墨画や神楽の道具作りなどが実施できないかと考える。</p> |

| | | |
|---|-------|--|
| 4 | 質問 | 活用部会としては、活用についての案出しでよいのか。または、1名の学芸員により活用できる具体的なプラン立てをするのか。 |
| | 回答 | 具体的なプランが欲しい。1名の学芸員が実施できるものをお願いしたい。 |
| 5 | 質問 | 歴史文化保存展示施設のマンパワーはどのような想定か。 |
| | 回答 | 3名体制である。1名は歴史系の学芸員。1名は学校連携担当者。1名は事務員である。 |
| 6 | 意見・質問 | 1名の学芸員で展示や活用も実施するのは、学校連携の1名がいるとは言え難しいと感じる。狭い分野の博物館の学芸員でさえ難しいだろう。 このため、活用に関しては、優先順位を決めて議論をする必要があるだろう。整備方針にある学校教育、生涯学習、市民、観光客とどれが最優先なのか。 |
| | 回答 | 整備計画では、子ども、ふるさと郷育をうたっており、学校教育がメインである。 |
| 7 | 意見 | 学校教育がメインであるなら、教育現場の話聞く必要があり、それを基本とすべきであろう。 子どもを考えた時に、「家庭」というキーワードが見えてこないのが気付きである。家族、ファミリーもターゲットとして考えると違う視点もでてくる。 プラン作成にあたっては、学校現場と現在の世界子ども美術館の活用取組等についてヒアリングを実施する必要があり、それが今後活用を検討する上での基本となる。 |
| 8 | 意見 | 以前、私は世界子ども美術館のスクールミュージアムを作る立場であり、他の美術館からも注目を浴びた。最初に教員を美術館へ呼んで説明をした。その時は、スクールバスなどの便がなかったため、反応は鈍かったが、民間バスをなんとか手配して実施した経緯がある。このスクールミュージアムなど学校連携事例については、世界子ども美術館の年報に記載されているので参考になる。 今はスクールバスを利用するなど、手法は変わっているが、これは上手く取り入れてほしい。 |
| 9 | 意見 | 大学教授の前は、学校教員をしており、博物館学習を実施していた。全日本博物館学会などでも発表しており、評判は高く、博物館学習は教育的に効果が高いものである。 文科省においても多様な主体との連携と協働の推進が提唱され、浜田市では、この9月議会において「浜田市協働のまちづくり推進条例」が制定された。これからの博物館は、地域活性化の拠点となるべき性格を持つようになり、市民の主体的な参画など多様な主体との協働を実現するために、今後も多くの意見や提案をお願いしたい。 |

| | | |
|----|----|--|
| 10 | 質問 | 歴史系の学芸員は新規採用者か。 |
| | 回答 | 具体は固まってはいるが、新規採用者の予定である。 |
| 11 | 意見 | 人事計画であるので、いつまでにとは言えないが、計画ができあがってから、途中参加となると、その人も困ると思われる。 また、ロードマップを作る必要がある。開館後1年、3年、5年、10年と長短期計画を盛り込んだものが必要である。開館当初からすべての項目を実施するのは難しいので、長期的な視点をもつことが必要である。その際には、世界子ども美術館の実績が参考となるだろう。 |